

# 平成30年度 事業報告

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

## 事業運営の概要

当協会は、設立以来、都市緑化、公園緑地及び自然環境等に関する事業を通して、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりを推進し、健全な地域社会の形成と生活文化・福祉の向上に寄与することに努めてきました。

平成30年度は、9月に台風21号と北海道胆振東部地震のふたつの災害が発生し、当協会が管理する公園・施設においても、多数の倒木が発生するなど甚大な被害がありました。これらの迅速な処理・復旧に努めつつ、公園緑地等の良好な管理と利活用等を通じ、不特定多数の方々に利益を還元するという使命と責任のもと、公益性の高い事業を適切に執行し、利用動向に的確に対応して事業を展開しました。

指定管理者の更新を迎えた西岡公園と月寒公園においては、これまでの管理経験を基に公園リニューアルへの適切な対応や新たな取組みを盛り込んだ事業計画を提案した結果、両公園において再選定されました。

公1事業では、札幌市あてに大口(1,000万円)の寄付を賜り、札幌市都市緑化基金に積み立てられたほか、企業の社会貢献活動の一環として記念樹配布用の苗木の寄付を受けました。これら基金の運用益活用等による民有地緑化と緑化普及啓発事業のほか、ガーデニングボランティアの養成・ネットワーク化の推進を図りました。

公2事業では、新たに5年間の指定管理期間が始まった13公募区の指定管理公園をはじめ、事業計画に基づき、また新規事業にも積極的に取り組みつつ、公園・施設の魅力を最大限に発揮する管理に努めました。山口緑地では新たに西エリアの供用が開始されたほか、更新時期を迎えた各公園の運動施設等においては、管理者の視点で改修・リニューアルに際して助言等を行い、よりよい公園利用環境の実現に向けて対応しました。

都市公園等の管理全体では、市民協議会等との連携など市民参加や地域との協働を進め、利用者の満足度と公園施設の魅力向上に留意しました。各公園・施設では、それぞれの特性を生かした講習会やイベント等の開催のほか、プレーパークなど子どもの外遊びのサポートに取り組みました。また、植物管理や生物多様性保全等において、大学や外部機関との連携により、効果的な取組みや普及啓発に努めました。緑化植物園では緑の相談や各種の講習会を実施し、園芸知識・技術の向上、緑化の普及啓発に努めました。公園内の運動施設では、安全で快適な利用環境を提供し、各種の運動教室や運動クラブの運営など、施設を活用した市民の健康増進や競技力の向上、スポーツ振興などに取り組みました。

国営滝野すずらん丘陵公園については、運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。

収益事業については、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、自動販売機設置業者のプロポーザル選定による収入の向上のほか、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に留意しました。

法人運営全体としては、札幌市所管部局との協議に基づき、札幌市出捐金の一部返還を段階的に進め、今年度は500万円を返還(寄付)しました。また、次年度からの3年間を目標とした経営改善計画の策定に向けた準備に着手しました。このほか、安定的事業展開を図るための組織改編、人材育成の推進やコンプライアンスの徹底、安全管理体制の充実、一般事業主行動計画策定等の労働環境整備などにより、運営管理の改善強化を図りました。

# 公 1 都市緑化基金等事業

## 札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

平成 31 年 3 月 31 日現在

区 分		昭和59年度～ 平成29年度	平成30年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		445,943,528	10,343,492	456,287,020
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	158,768,584	10,343,492	169,112,076
協会への寄付金		28,540,051	695,214	29,235,265
	個 人	1,397,934	0	1,397,934
	募金箱	3,975,692	147,303	4,122,995
	企業・団体	12,886,425	547,911	13,434,336
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		477,483,579	11,038,706	488,522,285

## 1 植樹等による民有地緑化事業

---

### (1) 苗木等の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラックの苗木 119 本、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 50 本を配布した。

### (2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市民に 5 件 42 株(補助は半数)のナツツタの苗を補助した。

## 2 緑化推進に関する普及啓発事業

---

### (1) さつぽろ緑と花のフォトコンテスト

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地における花や緑、自然とのふれあい等をテーマとしたフォトコンテストを実施した。また、第 30 回を記念して歴代グランプリ作品をまとめた作品集を作製し、入賞作品展への来場者へ配布した。

応募総数 132 人 528 点 四つ切り部門 68 人 208 点

サービスサイズ部門 64 人 320 点

表彰式 平成 30 年 10 月 23 日 札幌すみれホテル

入賞作品の展示 期間:平成 31 年 2 月 22 日～2 月 27 日

場所:富士フイルムフォトサロン札幌

### (2) 緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象とした絵画コンクールを実施した。

参加学校数 28 校 応募総数 505 点

表彰式 平成 30 年 10 月 13 日 札幌すみれホテル

入賞作品の展示 期間:平成 30 年 10 月 12 日～10 月 16 日(5 日間)

場所:札幌地下街オーロラコーナー

### (3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術等について解説する冊子「すくすくみどり」を作成・配布した。

- ・ すくすくみどりNo.27 「はじめよう種からの花苗づくり」

内容:初心者(経験のない人)にもわかりやすい表現を用いて、種まきから花苗ができるまでの過程を順序立てて解説。

## 3 都市緑化サポーター養成事業

---

さつぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターを養成するため、ガーデニング講座を開講した。

- ・ 実習編全 10 回、受講者 20 人

## 4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

---

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

- ・ 貸出数 6 団体 160 基(花苗 800 株)

## 5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

### (1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※ 助成財源：一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

### (2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人や関心を持っている人へ、相互交流イベントの開催や活動に役立つ情報、スキルアップのための講習会等を提供するため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を運営し、「花と緑のボランティア団体」「さっぽろタウンガーデナー」への登録促進と活動を支援した。

- ① 登録数・・・団体 32 団体、個人 308 人（平成 31 年 3 月 31 日現在）
- ② 情報発信・広報・・・ホームページの運営、会報誌「花と緑のネットワーク通信」の発行のほか、情報誌「オントナ」、地域新聞ふりっぱー、園芸雑誌「MyLoFE」等へ登録制度や事業内容を掲載した。
- ③ まちづくり体験実習の実施  
花と緑のまちづくりへの参加を促すため、市民による花壇づくりを実施した。
  - ・ 市役所前コンテナガーデンづくり・・・12 回実施、延べ 138 人参加
  - ・ 中島児童会館花壇づくり・・・14 回実施、延べ 250 人参加
- ④ 講習会の実施  
タウンガーデナーのスキルアップと相互交流を図るため、講習会を実施した。

内 容		参加人数	実践時の一般参加者
1	サポーター養成講座～教わる人から教える人に～「3株でつくる寄せ植え講習」(全3回)	延べ53人	23人
2	サポーター養成講座～教わる人から教える人に～「たねダンゴで楽しく種まき」(全2回)	延べ23人	12組24人
3	サポーター養成講座～教わる人から教える人に～「種まき・育苗をマスターして教える人になろう」(全2回)	延べ30人	54人
4	講習会・ライラックについて学ぼう(全2回)	延べ28人	
5	講習会・北国のバラ	38人	
6	講習会・宿根草の活用法	24人	
7	講習会・コミュニケーションスキル①②	延べ40人	
8	春の茶話会&タネ・苗交換会～街路ます花壇の植栽アイデア～	35人	
9	秋の茶話会&タネ・苗交換会～花壇の冬支度と土のはなし～	29人	
合 計			401人

### ⑤ 研修見学会の実施

タウンガーデナーの知識向上と交流を深めるため、研修見学会を実施した。

- ・ 見学先：北海道医療大学附属薬用植物園・北方系生態観察園(当別町)
- ・ 実施日：平成 30 年 7 月 6 日
- ・ 参加人数：20 人

### ⑥ さっぽろ花と緑のまちづくり講演会 2018 の実施

花と緑のまちづくり活動が一層活発になることを目的として、講演会を実施した。

- ・ タイトル：第 1 部「園芸は楽しい方が良く～楽しすぎる暮らしのために～」  
第 2 部「園芸と暮らしと花壇ボランティア～杉井志織さんを囲んで交流会～」
- ・ 講師：園芸家 杉井志織、MyLoFE 編集者 川合美帆
- ・ 実施日：平成 30 年 11 月 4 日
- ・ 会場：札幌ビューホテル大通公園
- ・ 参加人数：第 1 部 135 人、第 2 部 59 人

### ⑦ 広報イベント「さっぽろ花と緑のネットワークフェア～春の扉を開けましょう～」の実施

タウンガーデナーによる「応援スタッフミーティング」で企画・準備・運営を行った。

イベントでは、ボランティア団体のパネル展示、クイズラリー、写真のスライドショーを実施したほか、サシェ(香り袋)づくりの体験コーナーを設けて事業 PR を行った。

- ・ 実施日：平成 31 年 3 月 7 日
- ・ 場所：札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)
- ・ 参加人数：パネル展示・クイズラリー 230 人、体験コーナー 176 人

### ⑧ 技術指導講師派遣の実施

登録ボランティア団体が開催する講習会へ技術指導講師を派遣した。

- ・ 1 回実施、50 人参加

## 公 2 指定管理等公園施設事業

### 1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

#### (1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

特に、酪農学園大学と締結している「連携と協力に関する協定」に基づき、公園内の外来生物問題に関する調査等を継続して実施した。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

#### (2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

#### (3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

#### (4) 緑及び魚類等水生生物の調査・研究

当協会のプロジェクトによる取り組みとして、各公園の芝生広場及びパークゴルフ場において、芝生の状況・管理に関する調査・評価を実施し、併せて、標準的な芝生広場等を対象とした芝生管理マニュアルを作成した。

また、札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

### 2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

#### (1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ、ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2018」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して情報発信の効果を高め、誘客につなげた。

9月の台風及び地震の災害時には、各公園・施設で随時札幌市と連携を取り、園内の安全を確保し、利用者に公園の状況を適切に周知するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。



## (2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係諸団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

## (3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用、生物多様性保全など、環境に配慮した取組みに努めた。特に公園緑地の維持管理において、発生した剪定枝や刈草等をチップ化・堆肥化したほか、各種工作教室等の素材として再利用するなどした。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントや身近な野生動物に関する勉強会等の環境教育プログラムを企画・実施した。このほか、札幌市の生物多様性活動拠点に登録している 4 施設では、連携事業であるクイズラリーやバスツアーに参加協力したほか、生物多様性に関する展示やイベント、情報発信を行った。

## (4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

## (5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

## (6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。また、外部からの要請に応じて、花や緑、生物、自然等に関する講座や講習等に職員を講師として派遣した。

## (7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

# 3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

## (1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会や、子ども向けのかけっこ教室、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する当協会のプロジェクトによる取組みとして、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、厚別公園では(一社)A-Bank北海道との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブ・サッカークラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。



## 各公園施設における取組み

### 大通公園・創成川公園

#### 1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働でイベント開催や公園ガイドによる情報発信に努め、また季節毎に北国の魅力・特性を生かした植物管理を行い、近隣の商店街・地域住民と連携したにぎわいづくり、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

##### (1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」（以下、インフォメーションセンター）を運営し、年間約 11,500 人の利用があった。札幌の観光案内や公園の魅力など様々な情報をタイムリーに提供することで、利用者の満足度とリピート率の向上を目指した。また、雪まつりでは、インフォメーションセンターの表示看板を視認性の良いものに交換したことにより来店者が増加し、利益の向上と利用者の利便に資することができた。

ホームページでは、開催イベント情報やタイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につながった。

大通公園ガイドボランティアによる「公園ガイド」は、公園の歴史や樹木、彫像を解説し、札幌や公園の文化的財産を共有することにより、市民の愛着心の醸成と観光客へのおもてなしに努めた。また冬期間、観光客等で賑わう「さっぽろ雪まつり」でも期間中ガイドを行い、四季を通じて公園と札幌の魅力の発信に努めた。

##### (2) 体験型利用の促進

大通公園は、大型イベント会場として賑わうほか、竹馬や自然素材を使ったクラフト、冬期のそり遊びやウィンタースポーツ体験などを企画・実施し、体験型による利用促進に努めた。また札幌市と共催で、大型イベントによる賑わいと対照的に、設置物を無くして公園の魅力的な空間を楽しむ 2 日間「プレミアムウィークエンド」を設定した。期間中は利用者アンケートを行い、利用促進の方向性を探った。

創成川公園でも、七夕会でのささ舟づくり、ハロウィンのランタンづくり、スノーキャンドルづくりなどの体験型イベントを実施し、市民だけではなく、「コト消費」を求める海外観光客等の参加につなげた。

##### ■自主事業による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①どんぐりクラフト	3 日 93 人	①公園まるわかりガイドツアー	8 日 48 人
②竹馬無料貸出	194 日 390 人	②ライラック写真募集	14 日 14 人
③夏休み公園謎解きラリー（共通）	25 日 20 人	③夏休み公園謎解きラリー（共通）	1 日 10 人
④たねダンゴ	1 日 50 人	④子ども彫刻清掃ボランティア体験	1 日 2 人
⑤バラフェスタ	2 日 300 人	⑤七夕会	1 日 100 人
⑥くじらの森遊びの会 七夕会	1 日 50 人	⑥ハロウィン	1 日 400 人
⑦子どもバラボランティア体験	14 日 5 人	⑦まち灯り スノーキャンドルづくり	2 日 300 人
⑧くじらの森遊びの会 忍者修行	1 日 20 人		
⑨ウィンタースポーツフェスティバル	1 日 6,099 人		
⑩そり山（そり無料貸出）	14 日 237 人		

#### 2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対して、用具の提供・指導など活動支援を行い、年間を通じて市民協働の推進に努めた。

近隣地域との連携では、「大通公園・創成川公園利活用協議会」を開催した。近隣の町内会、学校、施設等に公園運営への理解を深めていただき、指定管理者と地域の相互協力体制、情報交換などが話し合われた。

## (1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出し、ベンチ塗装プロジェクトのボランティアへの人的支援など、それぞれの活動内容に合わせて適切なサポートを行った。

両公園の登録ボランティアには、自発的な活動を重視しながら、専門家の技術指導によるスキルアップや必要物品の支給、アドバイス等を行ったほか、ユニフォームの貸与で活動の連帯感やモチベーションの向上を図った。

## (2) 地域団体との連携

大通公園では、地域住民主体の「大通地区にぎわいフェスタ」の実行委員としてイベントに参加し、ガイドボランティアの協力も得て、地域との協力・連携が図られた。

創成川公園では、狸二条広場の活用について、狸二条広場運営協議会と連携を図り、月に1度の会議出席、イベントの共同開催、公園の防犯パトロールなどを実施した。また、札幌商工会議所青年部の主催する「キャンドルストリーム」と連携し、創成橋のライトアップを行うなど、公園の魅力アップを図った。

## (3) 教育機関との協働

近隣小学校との連携では、児童による花壇への花苗の植込みのほか、植物管理などのボランティア体験を行った。さらに、近隣の高校生が企画し開催した「小学生職業体験」の受け入れ、児童を対象とした公園イベントのチラシ配布などにより、子どもの公園利用や参加・協働を促進し、公園への愛着心の醸成を図った。

## (4) 近隣施設との連携

さっぽろテレビ塔及び札幌市資料館と協力体制を取り、円滑なボランティア活動やイベントチラシ配布など、相互に市民活動と広報効果を高めた。大通地区にぎわいフェスタでは、大通公園ボランティアと資料館ボランティアが協働でガイドを行い、連携を深めた。

### ■NPO・ボランティア団体との連携による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①ベンチ塗装プロジェクト	2日 120人	①サンキューフェスティバル(共催)	3日 -
②大通地区にぎわいフェスタ (実行委員会参加)	2日 -	②創成川キャンドルストリーム &イルミネーション(後援)	5日 - (地震により途中で終了)
③フェアトレードフェスタ 2018 in さっぽろ	1日 500人		
④雪まつりガイド(ボランティア)	8日 121人		
⑤ウィンタースポーツフェスティバル (実行委員会参加)	1日 -		

### ■ボランティア活動一覧

	団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
大通公園	①花壇維持管理ボランティア	50日 延べ 287人	花壇の維持管理
	②花壇ボランティア(NPO シーズネット)	18日 延べ 145人	花壇の維持管理
	③バラ管理ボランティア	45日 延べ 546人	バラの管理
	④ガイドボランティア	195日 延べ 844人	おもてなしガイドとして公園を案内
	⑤花壇ボランティア	3日 延べ 125人	花苗の植え込み(春・夏・秋各1日)
	⑥資生館・中央小学校(3・4年生)	2日 延べ 299人	花苗の植え込み(夏花壇)
創成川公園	①お助け隊	40日 延べ 212人	清掃、除草、イベント運営など
	②植物ボランティア	36日 延べ 210人	ライラック等の植物管理
	③花くらぶ	15日 延べ 70人	コンテナ花壇の管理

## 中島公園・豊平川緑地(上流地区)

### 1 普及啓発・利用促進事業等

市街地に隣接しながらも水や緑が豊かで野鳥などの動物が見られ、また、札幌の歴史的建造物や文化施設もあり、文化的イベントが今も開催されている公園の魅力と特性を活用するとともに、地域団体や企業、関連団体、教育機関との協力・連携を密に図りながら、季節に応じた様々なイベントを企画・実施した。

冬季イベント「ゆきあかり in 中島公園」について、今年度はさっぽろ雪まつり実行委員会からの協賛金を受けて、雪像制作物の拡充と安定したイベント運営を図ることができた。また、英語表記のイベントチラシの作成によりインバウンド対応も図られ、一層の利用促進とサービス向上につながった。

#### (1) 市民にわかりやすい楽しい情報提供

公式ウェブサイトを活用し、年間を通した景観の魅力やタイムリーな公園情報を発信することで公園をPRし、新規の公園利用者誘致、リピーターの増加を促した。

公園で作成している園内樹木マップを継続配布するとともに、札幌ライオンズクラブの協力で樹名板を設置するなど、園内散策アイテムの充実によるサービス向上と利用促進に努めた。

#### (2) 「都心のオアシス」として公園の魅力アップ

都心部における貴重な親水空間である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけるよう、ライラックやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に配慮し、市民が休息や写真撮影などで利用する場としての環境整備を心掛けた。また、「野鳥観察会」や「いきもの観察会」などの自然イベントを開催し、都会では貴重な生き物と触れあえる企画を提供することで、公園の魅力アップにつなげた。

#### (3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」、「札幌まつり」、「歳の市」など、長期にわたり中島公園を会場として親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため、催事の主催・関係団体との相互協力・支援体制の整備に努めた。特に、当協会が立ち上げ、公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などで構成される「中島公園地域コミュニティ推進協議会」(以下、コミュニティ推進協議会)による催事のサポートを継続して行ったほか、会場となる公園内の清掃や除雪、施設の安全性確保にも努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上につなげた。

#### ■自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地(上流地区)	
イベント名	参加人数	イベント名	参加人数
①なかじま桜まつり	200 人	①豊平川プロジェクト 札幌川見	3,000 人
②ノルディックウォーキング体験会	27 人	②豊平川緑地パークゴルフ交流大会	60 人
③キャンドルナイト	20 人	③ラストコールパークゴルフ大会	117 人
④見どころ探訪ツアー	18 人		
⑤野鳥観察会	16 人		
⑥冬のまちにスノーキャンドルをともそう！	100 人		

### 2 市民協働・地域との連携

地域との連携を図るため、コミュニティ推進協議会を継続し、年 3 回の協議会を開催することで相互の情報交換や協働イベントの開催、利用者のニーズを共有する場として活用した。

特に、コミュニティ推進協議会のメンバーである中島児童会館とは、地域の市民や子ども主体のイベント「かもくま祭」を協働で開催し、輪投げやスーパーボールすくいなどの子どものニーズに合わせたコーナーを出店するとともに、地域住民や他の参加団体と共に中島公園の利用促進と地域振興に努めた。

豊平川緑地では、パークゴルフ場(南7条コース・南大橋コース)の運営を、利用者団体である札幌市中央区パークゴルフ協会に委託して、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

### (1) ボランティア活動の支援・協働

公園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の充実化や、雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園のフローラルアップを図った。

このほか、清掃ボランティアなどの各協力団体の活動を支援することにより、市民協働・連携を図った。

### (2) 近隣教育機関との連携

公園近隣の小中学校における総合学習や職業体験を積極的に受け入れ、清掃や除草作業などを経験してもらうことで、緑や公園についての興味や愛着心の醸成を図った。

冬季イベント「ゆきあかり in 中島公園」では、近隣の小中高校からボランティアを募り、スノーランタン制作や会場設営を協働で実施した。

### (3) 市民活動・地域連携による相互の充実

コミュニティ推進協議会メンバーの個々の施設の魅力や活動の成果、イベント事業を共有することで相互に協力し合える体制を構築し、新たな活動展開や新規団体の参画の促進を図った。

#### ■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
フローレス 3B の会	30 日 延べ 151 人	旧百花園の花壇・バラ管理等
中島 Kids ガーデン	17 日 延べ 401 人	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
山鼻小学校社会実習	1 日 約 90 人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
中島中学校にて講演会	1 日 職員 1 名	中島公園の歴史について
中島中学校職場体験・社会実習	6 日 延べ 430 人	清掃、ロウソク加工、冬期イベント「ゆきあかり」補助
静修高校社会実習	1 日 延べ 12 人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
第 12 回かもくま祭	1 日 延べ 329 人	児童会館との協働子どもイベント
青空画廊の開催	展示 15 日 計 46 点	中島中学校生徒の描いた公園風景画を展示
鴨々川いきもの観察会(札幌市共催)	2 日 延べ 25 人	川の生物や自然に親しむ子どもイベント
第 13 回ゆきあかりin中島公園	3 日 延べ 3,700 人	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

## 3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場では雪解けが早かったため、早期から開放作業に取りかかり、開放後は定期的な草刈、施肥、灌水等の作業、雨天時のコース内排水作業を行うことでコースコンディションを維持し、利用者のニーズに対応した。

南 22 条野球場においても、雪堆積場の原状復旧立会后、直ちにグラウンド整備を実施し開放した。定期的な草刈作業等を確実に実施し、良好なグラウンドコンディションの維持に努めた。

パークゴルフ場、野球場の台風による被害については、復旧作業を迅速に実施し、安全に利用できる環境を整えた。

利用料金収入合計 9,543,805 円

(豊平川緑地パークゴルフ場南 7 条コース・南大橋コース・南 22 条野球場)

## 円山公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」を継続的に開催して好評を得たほか、「あけびのかごづくり」や「苔玉づくり」を開催し、好評を得ることができた。

札幌市経済観光局農政部農政課との共催による新たなイベントとして、札幌市における新規就農者の販路拡大やさっぽろの農業を市民にPRすることを目的とした「円山公園マルシェ」を自由広場内で定期的開催した。このほか、ネイチャークラフト教室「もくもく工房」やスポーツイベント「かけっこ教室」「ノルディックウォーキング講習会」「まるやま雪中運動教室」、冬期における公園の利用促進及び活性化を目的としたイベント「まるやまスノーラフティングチューブ」を新たに開催した。

園内ではリスや野鳥など野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発につなげていくことを目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成27年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催しており、徐々に公園の取組みが周知されてきている。

#### ■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①まるやま野生動物カフェ(4回)	134人	⑩円山公園探訪ツアー	26人
②ちょこっとプレーパーク(18回)	1,416人	⑪ナチュラルリースづくり(5回)	79人
③かけっこ教室	悪天候中止	⑫もくもく工房(10回)	40人
④あけびのかごづくり(3回)	23人	⑬まるやま雪中運動教室	3人
⑤ノルディックウォーキング講習会(2回)	24人	⑭冬の円山公園にスノーキャンドルのあかりを灯そう！2019	-
⑥いきものわくわくビギナーズ	25人	⑮スノーマウンテン造成及びチューブそり無料貸出	-
⑦円山公園こども夏まつり2018	1,372人	⑯まるやまスノーラフティングチューブ(2回)	26人
⑧円山公園マルシェ(3回)	627人	⑰苔玉づくり(2回)	39人
⑨公園あそびのヒント講座	14人		

## 2 市民参加・協働等

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、年間を通じてプレーパークを開催し、子どもたちに遊び場を提供した。

園内の在来植物の保護と外来植物の対策として、外来種除去活動を継続して実施した結果、オオハンゴンソウは神宮下園地や円山下園地ではほとんど見られなくなった。また、ゴボウ・イワミツバについても、北海道自然保護協会と連携して精力的な除去活動を行い、成果を挙げている。

## 3 利用料金収入

坂下野球場は高頻度で芝刈、グラウンド整備を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めた。自由広場は幼稚園・保育園の運動会やその練習での利用が大半を占め、グラウンド状況に応じて適時、整備を実施し、良好な状態に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 623,370円(坂下野球場、自由広場)

## 百合が原公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市のフラワーパークとして、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

9月の台風では約300本の倒木被害が園内で発生し、処理対応に努めたが、全体景観の復旧が必要な状況となっている。また、緑のセンター温室での植物展示会・講習会は年間94回の開催となったが、災害以降は客足が遠のいたため、冬期開催の展示会等については広報発信を強化し、来館者の回復につなげた。

このほか、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリング、ガイドボランティアが対応するお散歩ガイドを開催し、好評を得られたが、職員が見どころを案内する紅葉ツアーについては、災害の影響で中止となった。

#### ■自主事業による展示会・講習会・イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①展示会・講習会	66,141 人	⑥ぽっぴいはっぴいきたまちフェスティバル	2,000 人
②公園ツアー	中止 0 人	⑦スノーキャンドル	66 人
③プレーパーク	305 人	⑧クリーンアップ	11 人
④オリエンテーリング	160 人	⑨ボランティア説明会	2 人
⑤お散歩ガイド	200 人		

## 2 市民参加・協働等

### (1) ボランティア活動の支援

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4 つのボランティアグループ、計 45 名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- ・温室管理ボランティア「ミモザ」 11 人
- ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 11 人
- ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 6 人
- ・公園ガイドボランティア「ガイド」 17 人

### (2) 体験学習、実習等の受け入れ

札幌市内の小中学校や近郊の高校などから、環境学習や職業体験、インターンシップを受け入れ、公園や植物との関わりを実習等により体験し、緑化事業への魅力発信に努めた。

- ・百合が原小学校オリエンテーリング受け入れ 567 人
- ・百合が原小学校 3 年生総合学習受け入れ 93 人
- ・上篠路中学校、北辰中学校の職業体験 18 人
- ・真狩高校インターンシップ 1 人
- ・兵庫県立大学淡路景観園芸学校インターンシップ 1 人

### (3) 生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業である生き物クイズラリーに参加した。

## 3 緑の相談

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週 2 回（木曜、日曜）、緑の相談業務を行った。相談件数は 1,503 件だった。

## 4 利用料金収入

緑のセンターは前年度 2 月のリニューアルオープン以降、多くの来館者が訪れている。今年度は、週末の天候不順や 9 月の台風・震災被害による有料施設の休園の影響もあり、利用料金収入は目標に達しなかった。災害発生以降は客足が遠のいたが、1 月から集中して開催する温室展示会等の広報発信をマスコミ中心に的確に行った結果、多くの来館者を呼び戻すことができた。

利用料金収入合計 11,012,150 円（緑のセンター温室、世界の庭園、リートレイン）



## モエレ沼公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

夏季にはガラスのピラミッドの改修工事が実施され、なおかつ秋には台風、地震による大きな被害があるなど、今年度は恒例となっている展覧会やウォーキングの事業などは開催できなかった。しかし、そのような特別な状況にあっても、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用にむけて事業を展開した。(年間入園者数 705,555 人)

#### (1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

##### 1) 快適で賑わいある公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

園内で開催される多様な大規模イベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。

今年度は 7 回目を迎えるはずであった「モエレ沼芸術花火」(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)が、台風及び地震の影響で実施できなかったが、その他自転車レースのイベント、マラソン大会など、多くの事業を受け入れた。

また、施設等の管理では、安全管理、事故防止を第一としながら、各種イベントへの柔軟な対応・協力を行い、魅力ある公園づくりに努めた。

##### 2) 国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、Facebook や Twitter などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や海外メディアによる動画撮影、北海道のアートスポット紹介のテキスト執筆などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めたほか、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

##### 3) 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。その他、恒例となっているクリスマスコンサートイベントや、冬の展覧会など、多くの来場者を集めることができ、利用促進及び公園の価値向上につながった。

#### ■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①モエレの1年展	5,853 人	④モエレのホワイトクリスマス 2018 (コンサート、ワークショップ等)	1,032 人
②夏至祭 in モエレ沼公園	214 人	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りを ともそう! 2019	200 人
③モエレクラフト X(テン)	51 人	⑥所蔵品展 イサム・ノグチあかり展	2,738 人

#### (2) 他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取組みに努めた。また、夏季には市内中心部からの来園を促すため、認定 NPO 法人ポロクルが運営するサイクルシェアリング事業「ポロクル」のピットとして継続登録を行った。

### 2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、NPO やボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組みとその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めていただくとともに、出席者から多様な意見を拝聴して意見交換を行った。

#### ■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	活動日数、一般参加者数 (カッコ内は活動延べ人数)	活動内容
モエレ HIDAMARI	32 日、534 人(214 人)	春のクラフト、サクラツアー、ミニ盆栽づくり、木の葉でたたき染め、モエレクラフト、樹林地観察会等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	2 日、160 人	ふしぎヒコークワークショップ、モエレ秋のコンサート

### 3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、歩くスキーやスノーシュー、ソリなど、ウィンタースポーツ用品の貸出しを行った。特に、散歩コースは整備距離を延長して、利用者の要望に応えた。

また、今年度で 9 回目となる「モエレ山爆走そり大会」を開催した。実行委員会(事務局:東区地域振興課)の一員として円滑な運営に協力し、募集定員 80 組に対して 77 組/約 320 名の参加を得て、事故・怪我等なく無事終了した。

### 4 利用料金収入

テニスコートでは、団体の大会利用に合わせて、フィールドハウスやテニスコートの開閉場時間を柔軟に変更して運営に協力し、施設利用の促進を図った。また、日常管理では、老朽化に伴うコンディションの悪化を防ぎながらこまめな整備を行い、施設利用の快適性を維持した。秋の災害後は大会関係者と調整を行い、危険な場合は中止とするなど、協議の上、安全管理を適切に実施した。

ガラスのピラミッドの貸室では、7 月から 10 月にかけて実施された改修工事に伴い、長期間にわたる貸室制限があり、工事関係者及び貸室利用者と事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 17,422,840 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

## 川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

### 1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的でもある「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を 2 本の柱に利用促進事業を実施し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組んだ。

#### (1)公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

##### 1)ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第 60 回さっぽろライラックまつり」では、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの相談会を実施した。

川下会場では、ライラックの苗木無料配布や市民参加のステージイベントのほか、地域の園児・児童・学生と連携してライラックをモチーフとしたデコレーションを実施し、さらにライラックの展示会、ガイドツアー、クイズラリーなど、札幌市の木であるライラックを身近に感じていただける事業を展開した。また、販売や無料配布したライラックは、狭い場所や鉢植えでも育成しやすい矮性の品種を選ぶなど、工夫を凝らした。(期間中來園者数約 11,600 人)

また、5 月にロシア、モスクワ市で開催された国際ライラック会議に川下公園スタッフが参加し、札幌市におけるライラック普及活動の取り組みを紹介したほか、世界各国のライラック園芸家や学者などと意見交換するなど、海外にも情報発信を行った。

## 2) 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、各施設の有効活用や市民の健康増進を目的として、利用促進事業やサービス向上事業を実施した。

年間を通して「水中健康教室」を65回実施したほか、夏期には「ノルディックウォーキング」の講習会を行い、川下・北郷の両パークゴルフ場で開催した大会では、多くの参加者が交流を深めた。

また、川下公園パークゴルフ場では、利用者からの要望を受けて、一日券や後期高齢者割引券などの新券種を試行導入した。このほか、浴室やリラックスプラザ内レストランのリピーター促進・利用促進を図るため、各施設の利用毎にポイントを貯め、累積ポイントによりサービスを受けられる「Kポイントカード」や、ファミリー層の利用促進を目的とした「浴室家族割」を試行的に実施した。

さらに、高齢者や障がい者の利用が多いリラックスプラザでは、受付スタッフに「准サービス介助士」の資格を取得させ、接遇や介助対応力の強化を図った。

## 3) 季節に応じた事業の促進

札幌の初夏を彩るライラックの普及・啓発と利用促進を目的とした「さっぽろライラックまつり in 川下公園」は、2日間で約11,600人の来園者を迎え、本イベントの開催を通じて札幌の市木であるライラックの魅力を広く発信することができた。

また、前年に引き続き「白石区ふるさとまつり」を札幌市と共催で実施した。まつりの2日目は荒天により午後からの開催となったものの、子どもからお年寄りまで、約29,000人の来園者で賑わった。

冬季に開催した「ウィンターフェスティバル」では、スノーモービルでボートを牽引する「スノーラフティング」が特に好評で、2,700人の参加があった。この好評を受けて、引き続き同月の毎週日曜日に同イベントを実施し、冬季ならではの魅力ある催しを提供できた。

また、冬期の歩くスキーやウォーキングによる屋外活動を促すため、歩行距離に応じてスタンプを押印し、100マイル達成を目指す「川下100マイルチャレンジ」を試行的に実施するなど、健康増進意欲の高揚に繋がる事業を行った。

### ■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	1,195人	⑥白石区ふるさとまつり(共催)	29,000人
②さっぽろライラックまつり in 川下公園	11,600人	⑦ネイチャークラフト講座	54人
③ライラックガイドツアー	192人	⑧川下公園ウィンターフェスティバル	2,700人
④ノルディックウォーク講習会	5人	⑨サンデーラフティングボート	35人
⑤パークゴルフ大会(川下公園PG場)	64人	⑩パークゴルフ大会(北郷公園PG場)	115人

## 2 市民参加・協働等

### (1) 市民参加のボランティア活動

ライラックの花がら摘みを「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

### (2) 市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として「白石区でっち奉公」を実施し、5校22人の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、今年度は近隣の川北小学校から総合学習への協力依頼があり、園内の動植物を通じて環境教育に関わる授業を行った。

近隣町内会や教育機関等の関係者の参加による川下公園利活用協議会を開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することをあらためて確認した。

このほか、北東白石地区青少年育成委員会による「雪あそびフェスティバル」において、テントの貸出し、雪山作り、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石区まち美化プログラム」に参加し、春に白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

### 3 ライラックの継続的な品種管理

川下公園では、函館市と北海道林業試験場緑化樹センターの協力の下、日本最古とされる貴重なライラックを組織培養させ、樹高 30 センチ程度に成長させており、今年度、札幌市立川北小学校の総合的な学習の授業において、同校の 3 年生児童とライラックの森に植樹した。次年度は、同時期に組織培養したライラックの苗を函館市に返還する予定である。

### 4 利用料金収入

札幌市と協議して屋外施設の開放期間を早めるなど、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 16,118,765 円（川下公園リラックスプラザ温水プール・浴室・野球場・テニスコート・パークゴルフ場、豊平川緑地下流地区サッカー場） ※北郷公園野球場の収入は含まない

## 豊平公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

緑のセンターはリニューアルにより地下鉄駅出入口に隣接した立地となり、来館者の利便性が向上した。新施設となって2年半が経過し、知名度も向上して多くの来館者が訪れている。9月の台風では園内樹木138本に被害が発生したが、現在はほぼ処理が完了している（緑のセンター来館者数119,049人）。

#### (1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター（昭和54年3月開所）として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、今年度も流行の植物から古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフト作品まで幅広い展示会を開催した。展示会の多くは、市内や道内で活動する植物同好会やクラフトサークルの会員の発表の場としても活用され、市民園芸文化の普及において重要な役割を果たすとともに、各団体の活動の周知と活性化に協力した。

また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした、合計67回の園芸教室・自然観察会を開催した。（参加者数1,041人）

- ・展示会（野菜、盆栽、洋ラン、ボタニカルアート展等）28回 176日 入館者79,278人
- ・園芸教室（家庭菜園、鉢花栽培、冬囲い、病虫害防除、果樹剪定等）43回 727人
- ・自然教室（自然観察会）2回 12人
- ・クラフト講習会（あけびクラフト、レカンフラワー、クリスマスリース、ボタニカルアート等）19回 202人
- ・コチョウラン植え替えサービス 3回 100人

#### (2) 市民、他施設との共同イベント開催

近隣施設、団体等と共催イベントを開催するなど、公園を市民コミュニティの場として活用するよう努めた。

- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2019
- ・清田区のガーデニング講習会（プランターへの寄せ植え）に講師を派遣
- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業の生き物クイズラリーに参加

#### (3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、約13,000部を札幌市内の緑のセンターや公園、公共施設に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。今年度は紙面のリニューアルを行い、カラー化や旬の開花情報、イベント案内などを強化して好評を得ている。

### 2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの質の向上とを目的として、ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を行った。

- ・豊平公園花とハーブの会 23 日 延べ 242 人 花壇管理、ハーブ展運営、クリスマス展・イベント準備
- ・ガーデニングリラの会 3 日 延べ 19 人 イベント(リース展、スノーキャンドル)準備等

### 3 緑の相談

花や緑の大切さを認識し、緑を守り育てるための知識を深めることを目的として、緑のセンター休館日を除く毎日、緑の相談を行い、計 19,405 件の相談に対応した。

### 4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,255,360 円(テニスコート、講義室)

## 平岡公園・清田南公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

平岡公園梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

#### (1) 魅力ある公園づくりと情報発信

##### 1) 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

梅林では、独自の開花予測を公表し、開花後も日々の状況を公式ウェブサイトでリアルタイムに発信したほか、マスメディアへのプレスリリース、取材対応などに力を入れた。(期間中來園者数 115,133 人)

また、利用希望の多い車いすの貸出を梅林で実施するなど、誰もが花見を楽しめる環境の整備に努めた。

##### 2) 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

園内の多様な自然資源を活用し、市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携により、観察会やイベント等を開催するなど環境教育の拠点として充実を図り、住宅地に囲まれた公園の自然景観保全にも努めた。秋以降は台風・地震の被害により、一部中止するイベント等も発生した。

また、近隣小学校や大学の環境教育授業の協力・支援を行った。

#### ■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数(うち中止)	参加者数	備 考
①公園ツアー	8 回(4 回)	95 人	
②へイケボタル観察会	2 回	84 人	
③ひらおか自然まるごと探検隊	4 回(1 回)	48 人	子どもゆめ基金助成事業イベント
④愛犬といっしょの公園散歩講座	1 回(1 回)	0 人	
⑤雪のおうちイグルーを作ろう	1 回	37 人	

#### ■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数(うち中止)	参加者数	備 考
①ながぐつの土ようび	7 回(2 回)	162 人	
②ツリーウォッチング	7 回(2 回)	43 人	
③にぎわいフェスタ	2 回	149 人	夏・冬

#### ■学校等の授業への協力一覧

学校名	回数(うち中止)	参加者数	備 考
平岡南小学校(3 年生)	2 回(1 回)	111 人	春は平岡どんぐりの森と協働で対応
酪農学園大学	1 回	140 人	環境調査・公園管理



## (2) 他団体と連携した活動

ウインターライフ推進協議会との共催で、冬期に雪を利用した遊びとして「雪と氷の自然あそび体験～雪のおうちイグルーを作ろう」を開催した。(参加者数 37 人)。

## 2 市民協働、地域連携による公園づくり

### (1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れた。今年度は台風と地震による園内被害のため、例年より活動が減少したが、ボランティアコーディネーターを配置して活動を支援し、市民協働による管理運営を進めた。

#### ■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
平岡どんぐりの森	14 人	20 日 延べ 134 人	人工湿地管理・環境イベント等
梅ボランティア	6 人	9 日 延べ 49 人	ウメ管理
パークゴルフボランティア	24 人	170 日 延べ 645 人	パークゴルフ場管理

#### ■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
清田南公園野球場ボランティア	1 人	—	少年野球場の利用調整

### (2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、ボランティア団体や大学、研究者等と連携して環境イベントや公園管理を行ったほか、話し合いの場として「はらっぱ会議」を開催し、中長期の方向性を見すえた保全・管理に継続して取り組んだ。このほか、「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し、近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園の管理運営への理解を深めてもらうとともに、意見・要望等を傾聴して管理の参考とした。

## 3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,366,560 円(平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

## 平岡樹芸センター

### 1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓蒙並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を札幌造園技能士会と連携して開催した。9 月の台風による園内の倒木被害は 11 本発生したが、迅速な処理と点検の実施後、速やかに施設を再開した。

また、地域の貴重な観光資源であるサクラ、モミジの並木などの美観向上を目的とした整枝・剪定作業に力を注ぎ、公式ホームページへの開花情報の掲載やメディアの活用により、効果的な利用促進に努めた。

#### ■自主事業による開催イベント一覧

事業名	回数	参加者数	備考
①園芸教室	23 回	延べ 241 人	ツツジ、マツ、オンコ、果樹などの剪定等
②クラフト講習会	1 回	5 人	あけびを活用したクラフト講習会
③“みどりーむ”子ども夏まつり	1 回	364 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と協働
④第 10 回ひらおか庭園コンサート	1 回	582 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と協働
⑤まちに灯りを in みどりーむ	1 回	180 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と協働



## 2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」及び樹木会を適切にサポートすることにより、質の高い植物・樹木の維持管理に努めた。

このほか、環境サポーターズ「三次郎の会」とは、年に3回のイベント事業を協働で開催し、地域振興とともに利用促進を図っている。

### ■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	人数	団体名	活動日数	人数
環境サポーターズ三次郎の会	46 日	延べ 366 人	樹木会	42 日	延べ 147 人

また、冬期に「平岡公園・平岡樹芸センター利活用協議会」を開催し、札幌市、近隣町内会、小中学校、まちづくりセンターなどの関係機関及び諸団体と公園の利活用について協議した。

また、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業である生き物クイズラリーに参加した。

## 3 緑の相談

北国の特殊な環境下において、より多くの市民に家庭園芸を楽しんでもらうため、緑の相談員の知識と経験を集約し、週2回の相談業務を実施した。家庭園芸における知識や技術の提供のほか、庭園文化の継承や植物・樹木の四季を通した楽しみ方も提案している。今年度の相談業務は717件であった。

## 4 利用料金収入

利用料金収入合計 38,920 円(講義室)

## 農試公園・発寒西陵公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

農試公園は小学校や住宅地に近く、また、隣接地で新たな宅地造成があるなど、若い家族の利用が増加しており、四季を通じて健康づくりとスポーツを楽しめる公園として、多様な利用者に魅力ある公園となるよう、施設の有効活用に努め、様々なイベント・講習会等を企画・開催した。さらには、複数の手段により公園利用に関する情報発信を行い、利用促進に努めた。

#### (1)公園施設の活用推進、イベント・体験講習会等の開催

屋内広場アリーナでは、通常のスポーツ等の利用のほか、幼稚園・保育園の運動会など、多様な持込イベントに柔軟に対応し、実施に協力した。また、サッカースクールやかけっこスクールを開催し、トップアスリートの指導のもと、子どもたちの技術習得や競技能力向上、交流促進に努めた。

その他、交通コーナーでの交通安全教室、トンカチ広場での木工ワークショップの開催など、公園の資源を生かした利用促進に努めた。また、親子で楽しめるイベントや体験型講習会を多数開催し、市民が気軽に参加できる体験の場としての公園利用を推進した。

#### (2)冬期間における公園活用の促進

屋内広場アリーナは、冬でも陽のぬくもりを感じながら土の上でスポーツができる施設としての効果を最大限に発揮できるよう日常整備を行い、利用促進に努めたほか、屋内広場内サンルームでは、もの作りの講習会や防災に関するイベントを開催した。屋外では、多目的広場や芝生スタンドのスロープを圧雪・整備し、歩くスキーコース(2.2km)やスキー・ソリスロープを設置して雪上での運動・レクリエーションの場として開放したほか、「第17回西区民雪合戦大会」(主催:西区、西区スポーツ推進委員会)の開催・運営に協力した。また、スノーモビルでタイヤチューブを牽引する「わいわいタイヤチューブ」を運行し、利用促進を図った。

## ■自主事業による開催イベント等一覧

イベント名	開催月	参加者数	イベント名	開催月	参加者数
①かけっこ教室(2日)	5月	40人	②①のうし秋祭り(2日)	9月	900人
②のうしグリーンマーケット(3日)寄植体験	5月	12人	②②秋の星空観察会	10月	34人
③はじめての自転車教室(3日6回)	5月	58人	②③苔テラリウムづくり	10月	15人
④ペットボトルでハンギングプランターづくり	5月	3人	②④琴似発寒川サケ観察会	10月	296人
⑤トンカチ塾・母の日にはしを贈ろう!	5月	16人	②⑤ハロウィーンリースづくり	10月	10人
⑥かけっこ教室	5月	40人	②⑥トンカチ塾・ハロウィン貯金箱	10月	2人
⑦ノルディックウォーキング講習会	5月 9月	17人	②⑦葉っぱスタンプでトートバックづくり	10月	40人
⑧自転車教室	5月	30人	②⑧のうしハーバリウムづくり	11月	17人
⑨忍者になって修行だ	6月	23人	②⑨クリスマスリースづくり	12月	45人
⑩トンカチ塾・テーブルサッカーゲームをつくろう!	6月	20人	③⑩しめ縄リースづくり	12月	22人
⑪3株でつくる寄せ植え講習会	6月	29人	③⑪門松づくり	12月	17人
⑫愛犬との上手な暮らし方教室	6月	4組	③⑫はじめてのスキー教室	1月	5人
⑬琴似発寒川さかなウォッチング	7月	17人	③⑬新春風づくり	1月	43人
⑭第9回のうし夏まつり(2日)	7月	1,600人	③⑭パークゴルフ初心者講習会	1月	6人
⑮トンカチ塾・ゴムプロペラボートをつくろう!	7月	20人	③⑮歩くスキー初心者講習会(2日)	1月 2月	24人
⑯公園であそぼう	8月	126人	③⑯わいわいタイヤチューブ	1月～ 3月	2,244人
⑰素焼きの鉢で風鈴づくり	8月	42人	③⑰冬のまちにスノーキャンドルの灯りを ともそう2019	1月	
⑱公開さかな調査	8月	36人	③⑱種まき講習会	2月	12人
⑲トンカチ塾・木製チェアをつくろう!	9月	14人	③⑲苔玉づくり	3月	50人
⑳農試公園ベンチ塗装プロジェクト(2日)	9月	19人	④⑰ナチュラルリースづくり	3月	26人

## ■自主事業によるスポーツスクール

スクール名	回数	のべ参加者数	スクール名	回数	のべ参加者数
のうしサッカースクール 通年毎週水曜日開催	43回	841人	のうしかけっこスクール 通年毎週月曜日開催	28回	576人

## (3)札幌市民、近隣住民への情報発信

公式ウェブサイトを活用し、基本的な利用情報のほか、公園の冬期利用促進につなげる各種アクティビティの情報を新たに動画で配信するなどタイムリーな情報発信に努め、アクセス件数の増加を図った。

また、農試公園の有料施設やイベントの利用促進を図るため、毎月の施設利用情報等を記載した広報紙「農試公園だより(A3 両面二つ折り)」を約 3,500 部作成し、市内各施設及び近隣の町内会等に配布した。

このほか、広報さっぽろ、マスメディアやフリーペーパー等に積極的に情報提供し、利用促進に努めた。

## 2 市民協働による公園管理・利活用の推進

農試公園では、緑化ボランティア「カポック」が毎週月曜日に屋内の観葉植物や園内花壇の植栽・維持管理、花苗育成などの活動を行った。花苗・育苗土・ハンギング用プランターなどの必要な資材等を提供し、活動を支援した。

また、西区地域振興の連携事業として、「八軒まちづくり協議会」に参加し、八軒連合町内会のイベント「福まち春のウォーキング」の実施協力、「八軒地区青少年育成協議会」への出席、1月のスノーキャンドルイベントでの「見る! 知る! 体験! 冬の防災 DAY」の共催など、防災・防犯、健康づくり等の様々な分野での協力体制の強化を図った。

教育機関との連携事業としては、八軒西小学校3年生による農試公園のフラワープランターへの花植え、雪像造りを実施し、社会学習の場として公園の利活用を推進した。

### 3 利用料金収入

6月から11月までの間、屋内広場アリーナの改修工事が行われ、その後12月に年次整備としてグラウンドの耕耘、転圧、不陸整正と施設点検を実施したため、その間は利用休止、減収となった。

利用料金収入合計 12,191,290 円

(農試公園野球場・硬式テニスコート・軟式テニスコート・屋内広場アリーナ、発寒西陵公園硬式テニスコート)

## 手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内で4箇所運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理、事業を行った。

#### (1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にあるスポーツ施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてノルディックウォーキング等の講習会を、地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたイベントを行った。

いなづみ児童会館と連携して試行的に実施した「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」は、除雪された園路にスノーキャンドルが灯る光景が通行する公園利用者の目を楽しませ、参加者からも好評であった。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
6/17	①ノルディックウォーキング講習会	5人
9/9	②テニス講習会	震災により中止
9/17	③ノルディックウォーキング講習会	7人
10/21・22	④木の実のリース講習会(午前午後/計4回)	38人
1/19	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	30人

### 2 地域との連携・市民協働事業等

3 公園とも周辺に多数の町内会がある住宅地の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行った。

#### (1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催し、公園運営への理解を深めてもらい、また各町内会や学校、公共施設等からの意見・要望を傾聴し、管理の参考とした。

また、手稲稲積公園・北発寒公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取組みとして、同好会団体と協働でコース管理等の活動を実施し、利用者の声を直接聞き、管理運営のレベルアップを図った。

#### (2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

近隣の小中学校等の教育機関の「体験」や「学び」の場としての公園利用への積極的な協力のほか、地域のイベントなど、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図った。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に今年度から正式加盟し、同団体による地域の防犯や防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、冬期間の通勤通学などでの JR やバスなどの公共交通機関利用者の安全な公園内通行を確保するため、降雪状況に応じて、接続する一部園路の冬期除雪を実施した。

#### ■地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	参加者数
5/9～	いなづみ花クラブ(4回)	児童会館の小学生を対象とした、花壇の手入れを体験し学ぶ活動 ※9/4 震災により中止	30 人
7/6	稲積小学校3年生 花苗植込実習	休養広場花壇に花苗を植える体験実習	45 人
8/4	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会主催の夏まつりに協力し、体験工作等の催事出店	1,800 人
10/27	ハロウィンパーティ(いなづみ児童会館と共催／イベント内での木工クラフト・体験事業)	園内で採取した植物材料を使用した木工クラフトや松ぼっくり釣りの体験	100 人
11/22	公園利活用協議会	公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催	10 人
6/11～	稲積安心・安全まちづくり協議会 (計 6 回参加)	協議会に加盟し、総会、役員会、講演会、防災訓練、落葉清掃に参加	—
3/6	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、今年度の事業報告と次年度事業の検討に参加	—

### 3 利用料金収入

テニスコートでは、競技団体の大会利用に合わせて、休憩所等の開・閉場時間や大会の使用コート、利用時間に柔軟に対応して運営に協力した。また、9 月から 16 面コートが改修工事により利用休止となったことから、一時的な利用者の減少となったが、工事に伴う利用調整のほか、既存施設の適正なメンテナンスに努めた。

その他運動施設の日常管理においては、9 月の台風による一部被害のほか、施設の老朽化や使用劣化に伴うコンディションの悪化に対処しながら整備を行い、改修工事に伴う利用者減を他の地区公園施設へ誘引するなどの利用者対応に努めた。

利用料金収入合計 7,245,740 円(手稲稲積公園硬式テニスコート・野球場、北発寒公園硬式テニスコート・軟式テニスコート・野球場、前田公園硬式テニスコート・野球場)

## 前田森林公園・星置公園・明日風公園・山口緑地

### 1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナルをはじめとした景観の維持や、自然環境保全に留意した維持管理を行い、ボランティア団体や教育機関との連携による環境学習やイベントの開催、携帯端末等の情報発信ツールの活用による広報を行った。このほか、山口緑地パークゴルフ場では、地域団体との連携による交流大会を開催するなど、公園・緑地の利用促進に努めた。

#### (1)魅力ある公園づくりと情報発信

##### 1)修景施設を生かした賑わいの創設

前田森林公園では、壮大なポプラ並木や青空が映り込む美しいカナル、年間を通して楽しめる花木などの魅力発信に努めたほか、道内最大級の大パーゴラ(藤棚)のフジを適切に管理するとともに、開花に合わせたイベント「ふじまつり」を開催した。

今年度は開花時期が良かったことや好天に恵まれたことなどもあり、前年比 2,800 人増の 4,000 人の参加があった。参加者には綺麗に咲き誇ったフジやコンサート、縁日などを楽しんでいただいた。

## 2) 情報発信・共有ツールの活用や対話による地道な誘致活動

各公園・緑地に適したイベントや講習会を企画・開催したほか、広報においては情報発信・共有ツールとして Twitter を積極的に活用した。

Twitter から情報を知り得た方は、アンケート回答者の 8.2% に上っており、フォロワー数は 3 月末で 3,985 人となった。

また、公式ホームページからの情報収集は 10.9% に上っており、Twitter と合わせると約 2 割の方がネットを利用して公園情報を得ている。

## (2) 公園の利用促進につながる自主事業

公園の魅力を高め、資源を活用して利用促進を図ることを目的とした各種自主事業等を企画・実施した。

### ■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期・回数	参加者数
①カナル春夏秋清掃	4,7,11 月(3 回)	33 人
②トンカチ広場	5～9 月(8 回)	366 人
③ふじまつり	6 月(2 日間)	4,000 人
④プレーパーク	6～3 月(10 日)	318 人
⑤自然観察会	6～2 月(5 回)	45 人
⑥手稲区内郵便局ボランティア清掃受入	6 月	100 人
⑦前田北小学校カエルのお別れ会	6 月	44 人
⑧パークゴルフ交流大会(山口緑地)	7 月	111 人
⑨クリスマスリース講習会	11 月(2 回)	13 人
⑩ミニ門松づくり講習会	12 月	10 人
⑪スノーラフティング	1～3 月(19 日)	193 人
⑫クロスカントリースキー初心者講習会 A・B・C	1 月(3 回)	75 人
⑬雪遊び場作成ボランティア	1 月	6 人
⑭冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう 2019	1 月	30 人
⑮クロカン簡単初心者講習会	1,2 月(5 回)	34 人
⑯歩くスキーレンタル	1～3 月(58 日間)	1,939 人
⑰スノーラフティング(星置公園)	2 月	43 人

## 2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

市民が気軽に親しみをもって公園を活用できるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を生かした活動を支援した。

### (1) 公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や、自然観察会を開催した。また、地域企業や今年度発足した前田森林公園クリーンボランティアのほか、一般の市民の方にも、カナルを含めた公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に貢献していただいた。このほか、明日風公園では、花壇管理ボランティアに対して資材等を提供するなど、活動の支援を継続して実施した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など  
トンカチ広場 9 回(うち 1 回は雨天中止) 366 人 自然観察会 6 回(うち 1 回は雨天中止) 45 人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 3 回 33 人
- ・手稲区特定郵便局清掃活動(活動場所提供) 100 人
- ・明日風フィオーレ 明日風公園花壇管理への資材(花の種子等)の提供

## (2)教育機関の公園フィールドでの活用

近隣の小中学校及び高等支援学校からの実習受け入れに対応・協力した。

前田森林公園

・札幌市立前田北小学校 3年生2学級 44人 1日

・札幌市立稲陵中学校 15人 1日

星置公園

・札幌稲穂高等支援学校 6人 3日間

## (3)その他の団体等との協働

・フライングディスクドッグ大会 FDS(競技団体)との連携により開催 約100人

・プレーパーク 手稲プレーパークの会による開催に協力 10回 318人

・スノーキャンドルイベントへの参加 約30人

## 3 利用料金収入

今年度は有料施設の老朽化も進む中、最善の整備に努めるとともに、施設利用の積極的な呼びかけを行うなど、収入確保に努めた。

パークゴルフ場においては、地域団体と連携して交流大会を開催したほか、新たな利用層の開拓にも取り組んだ。また、良好なコースコンディション維持のため、日頃からきめ細かな管理に努めた。その結果、今年度は台風や地震の被害があったが、収入は前年度を上回った。

利用料金収入合計 26,318,340円 (前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

## 厚別公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームのトレーニング器具の更新、冬期の歩くスキーコースの整備等を実施した。

#### (1)各種運動教室の実施

高齢者を対象とした「いきいき健康体操」、小学生を対象とした「キッズバレエ」など、幅広い年齢層が参加できる運動教室を計26講座開催し、健康増進と施設の有効利用に努めた。

#### (2)厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー(Atsubetsu Athlete Academy)を(一社)A-bank 北海道と連携し、運営した。

#### (3)スポーツ講習会等の実施

気軽にスポーツにふれあう機会の提供や、運動を始めるきっかけづくりのため、初心者を対象としたスポーツ講習会を実施した。

・厚別スポーツクリニック 78人 ・ノルディックウォーキング講習会 21人

・トレーニング講習会 51人

### 2 市民参加・協働等

公園周辺の環境整備のため、近隣住民と共に清掃活動を実施した。また、近隣小学生によるプランターの花植え、中学生の職場体験、「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。



- ・厚別フラワーボランティア 15 日 延べ 58 人
- ・ラブアース・クリーンアップ in 北海道 30 人
- ・上野幌西小学校 5 年生 プランター花植え 28 人
- ・中学生職場体験 2 校 8 人

### 3 他団体等との協働

小学生を対象とした札幌市の事業「ウインタースポーツ塾」の実施に当たり、コンソーシアム団体である（一財）さっぽろ健康スポーツ財団に対して設営準備等の協力を行い、冬期の競技場利活用に寄与した。

また、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加し、広報やイベント実施に協力したほか、共催事業として「厚別公園冬フェスタ」を開催した。

- ・厚別公園冬フェスタ 1,354 人来場
- ・ウインタースポーツ塾 240 人参加

### 4 自主財源による利益還元

舗装面の経年劣化により一部ひび割れや不陸が生じていた主競技場のピロティ下（延長155m）について、競技場利用者のスパイクによる歩行での足の負担の軽減、及び施設コンクリートの破損防止を目的として、当協会の自主財源によりゴムチップ舗装に改修した。次年度からは競技者や一般利用者のスポーツの普及振興や、市民の健康づくり活動の支援のために有効活用する。

### 5 利用料金収入

利用料金収入合計 29,231,964 円（主競技場、補助競技場、会議室、トレーニングルーム）

## 西岡公園・西岡中央公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」、「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

#### (1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、公園スタッフの手作りによる展示物や、公園に生息するウグイやフクドジョウ等の飼育展示などにより、四季折々の公園の自然を紹介したほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。また、公式ウェブサイトでも常に最新の自然情報、イベント情報を発信し、自然観察や体験等をはじめとする公園の利用促進に努めた。

#### (2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

西岡公園では夏期にヘイケボタルが羽化・繁殖しており、生態と自然環境との関係を学び、繁殖を妨げない観察方法の普及を目的とした観察会を実施した。また、植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説するガイドウォークのほか、市民が地域の文化を楽しむ行事であるカルチャーナイトの企画として、園内の生物に関する各種の講座を開催し、自然や生物への関心と生物多様性保全への理解を深める取り組みを展開した。このほか、特定外来生物の防除活動としてオオハングソンソウの駆除を実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。

#### (3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、プレーパークを6回開催した。西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携して、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。

## 2 地域との連携・市民協働事業等

### (1) 西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア6団体の協力により、プレーパークや自然観察会、木工クラフトなど公園の自然を活用したイベント「にしおかピクニック」の開催を9月に予定していたが、台風21号と北海道胆振東部地震により、公園内で倒木被害が発生し、参加者の安全を考慮して中止した。

#### ■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①子りす工房	51人	④かんじきウォーク	12人
②ガイドウォーク	207人	⑤スノーキャンドルのあかりを灯そう2019	120人
③プレーパーク	342人		

### (2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施したほか、利用者の意見・要望等を直接聴取することについて取り組んだ。

## 3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園では、子どもたちによる1年間の調査活動参加者を募集し、多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多い西岡公園のトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、それぞれ調査の実施から成果を広く公開する活動報告展・ポスターセッションまでを年間プログラムとして設定して活動した。

これらの活動においては、専門家や生き物を研究する大学生のほか、子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生に、指導や運営のサポートに関わっていただいた。これらの連携協働によって、環境教育活動の一層の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

#### ■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
西岡さかな組	10日、83人	水生生物の調査、報告展、ポスターセッション
西岡ヤンマ団	12日、177人	トンボの調査、標本作り、報告展、ポスターセッション

## 4 利用料金収入

融雪や天候等の状況に合わせて、有料施設の開放日を早め、また閉鎖日を遅らせたほか、利用状況に合わせた点検、清掃を行うなど、利用促進に努めた結果、収入が前年度を上回った。

利用料金収入合計 675,840円(西岡中央公園テニスコート)

## 札幌市豊平川さけ科学館

### 1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水生生物の展示などにより、水辺の生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

## (1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

### 1) 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの方に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。

9月に発生した地震により本館建物に被害が発生し、10月末まで閉鎖となった影響などもあり、年間入館者数は前年度から22.3%減の46,748人となった。

### 2) サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、4日間で2,844人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も、札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)と連携して実施した。

例年9月に開催している「さっぽろサケフェスタ 2018」は、地震の影響もあり、本館が利用できない中での縮小開催となったが、子どもたちが楽しく学べる体験プログラム等を提供し、1,253人が来場した。

これらの行事・イベントでは、通常の広報手段に加え、専用の広報ポスター、チラシ等を製作・配布し、広く事前PRに努めた。

サケ学習の指導・協力としては、小学校でサケの卵を稚魚まで飼育するサーモンスクールのほか、校内にふ化飼育施設を持つ東白石小学校に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

秋期には、エコ・ネットワークが主催する「サーモンフットパス」に協力した。コースに沿った地史や歴史、自然環境の見どころをエコ・ネットワークが担当し、河川環境やサケについてはさけ科学館が解説して、連携により充実した内容で実施ができた。

このほか、サケが遡上・産卵する札幌市内の河川で観察会を実施し、サケの見つけ方や産卵行動、産卵環境、ホッチャレの役割などについて解説した。

- ・琴似発寒川サケ観察会(2回) 296人
- ・豊平川サーモン・ウォッチング 9人
- ・星置川でサケを見よう 117人

### 3) その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを企画・実施した。

#### ■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①サケたちのエサやり体験(15回)	767人	⑦公開さかな調査	36人
②サケのいない時期のサケ教室(8回)	140人	⑧真駒内川ミニ水族館	62人
③知る・見る、カニさん、ザリガニさん	60人	⑨わくわく受精体験(4回)	107人
④北の沢川さかなウォッチング	11人	⑩サケ採卵実習	6人
⑤星置川さかなウォッチング	16人	⑪わくわく体験サケタッチプール(5回)	360人
⑥琴似発寒川さかなウォッチング	17人		

## (2) 他団体と連携した活動

### 1) 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体との連携を進め、運営の活性化に努めた。特に多数の参加がある春と秋のイベントについては、地域の自然系活動団体や大学、研究機関、町内会などと連携して開催した。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にも協力することで、相互の活動の発展に努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は32年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行った。

## 2) 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取り組み

市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、豊平川において野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。今年度は、SWSP の企画提案が札幌市の「まちなか生き物活動」に採択され、サケ産卵環境の改善作業や、普及啓発としてのサーモンフットパス&環境 DNA 調査体験、市民フォーラムの開催(183人参加)などに連携して取り組んだ。

## 2 調査・研究等

### (1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてホームページや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	616 箇所	1,232 尾	星置川	78 箇所	156 尾
琴似発寒川	202 箇所	404 尾	濁川	4 箇所	8 尾

### (2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

60 地点で調査を実施し、計 31 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 34 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

### (3) 大学・研究機関等の調査・研究への協力

大学や研究機関などからの調査や実験への協力、調査記録の提供など、計 25 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先: 札幌市(下水道河川局、円山動物園)、(国研)寒地土木研究所、北海道開発局、札幌河川事務所、(一社)北海道栽培漁業振興公社、石狩湾漁業協同組合、標津サーモン科学館、琵琶湖博物館、北海道大学、東海大学、石狩川流域委員会等

## 月寒公園・吉田川公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園は再整備の最終年となり、坂下入口のエントランス等の工事が行われた。新しくなった公園の人气が高まる中、休日は園内が非常に混雑する状況が続いたが、利用者の安心安全な公園利用の確保と、市民協働の推進に重点を置いて管理に取り組んだ。また、今年度は台風 21 号により、月寒公園で約 300 本の倒木被害が発生し、一時園内を全面閉鎖して復旧作業を進めた。9 月 29 日には閉鎖をすべて解除したが、倒木の撤去作業は 11 月まで及んだ。

#### (1) パークライフセンターを拠点とした情報発信とイベントの開催

パークライフセンターは前年度にオープンし、今年度はセンター周辺の外構工事が完了して立ち寄りやすくなったことで、来館者数は 115,537 人となり、前年度の約 3.5 倍に急増した。パークライフセンターでは園内の様々な問い合わせに対応するとともに、公園内の生き物や歴史などをテーマ別にまとめた「セルフガイド」を製作・配布し、野生動物や地域への理解、マナー啓発につなげることができた。休日は館内で、自然物を使ったバードコールやリースづくりのクラフト体験を開催し、身近な自然の楽しみ方を提案した。

## (2) 防災イベントの実施

月寒公園には、再整備によりマンホールトイレや緊急貯水槽など様々な防災関連施設が整備されており、今回の災害を受けて市民の防災意識が高まったことから、「月寒公園ピクニック」と「あそन्दル！」において、「マンホールトイレの使い方」などの防災関連の企画を実施した。公園の防災機能を地域住民が学び、防災と共助の意識の向上につながった。

## (3) 公園の利用を考えるワークショップの開催

月寒公園では、利用者の増加に伴い、迷惑行為や利用者間のトラブルが発生しており、その中には価値観の違いによるものも多いことから、利用者同士が公園のマナーについて話し合うことで価値観の違いを理解し、公園の快適性の向上につなげることを目的としたワークショップ「パークライフカフェ」を開催した。

### ■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数, 参加者数	イベント名	回数, 参加者数
①月寒公園であそぼうかい(プレーパーク)	12 日, 460 人	⑨生きもの観察会〜トンボ編	1 回, 20 人
②ノルディック・ウォーク体験会	6 回, 82 人	⑩愛犬と一緒にの公園散歩講座	1 回, 19 人
③パークゴルフ大会	2 回, 70 人	⑪ラブアース・クリーンアップ	1 回, 10 人
④つきさむパークヨガ	4 回, 42 人	⑫ソリーイング体験	10 回, 52 人
⑤月さむぼ〜歌と絵本と森あそび	3 回, 53 人	⑬パークライフカフェ	3 回, 33 人
⑥ちびっこ遊び隊!	4 回, 81 人	⑭イグルーを作ろう!	1 回, 70 人
⑦公園あそびのヒント講座	1 回, 10 人	⑮吉田川公園生きもの観察会	雨天中止
⑧プレーパークこれもしつ講座	1 回, 7 人		

## 2 市民団体・活動団体との連携、市民協働

### (1) 月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する経緯の中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、季節ごとに3つの大規模イベントを開催した。企画から運営まで協働で進めることで、地域の資源を活かした多彩な企画を実施することができた。

#### ■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容
①カルチャーナイト2018	566 人	パークライフセンターを夜間開放し、コンサート等を実施
②月寒公園ピクニック	1,598 人	落ち葉かき、コンサート、消防車の乗車体験など、様々な企画を実施
③あそन्दル!	902 人	スノーキャンドルづくりや雪あそび、水消火器体験等を実施

### (2) ボランティアとの連携

月寒公園では、除草や花壇の管理を行うボランティアを支援した。吉田川公園では、パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施した。

#### ■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	12 人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	4 人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	4 人	パークゴルフ場の管理運営

## 3 利用料金収入

利用料金収入合計 5,420,595 円

(月寒公園高台野球場・テニスコート・パークゴルフ場、吉田川公園テニスコート)



## 旭山記念公園

### 1 普及啓発・利用促進事業等

豊かな自然環境が広がり、眺望等の観光資源も有する公園の特性を活かして、公式ウェブサイト等による情報発信に努めるとともに、環境学習プログラムを企画して市民団体や町内会と協働で実施するなど、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。

#### (1) 自然情報と観光案内を兼ねた見頃・見どころの発信

札幌市街を一望できる眺望と、藻岩山などの山々と隣接する自然豊かな環境を有する公園であることから、四季の自然景観や動植物の情報をタイムリーに発信することでサービス向上を図った。

4月から9月までは週1回の頻度で「旭山記念公園自然情報」を作製し、森の家で配布するなど、公園で観察された生物の最新情報の発信強化を図るとともに、サクラの開花や紅葉の時期等には、プレスリリースの発信により、来園者の増加に努めた。

公式ウェブサイトでは、生物の観察情報などを年間202件発信した結果、閲覧数は前年度比125.3%の90,036件となった。また英語、中国語(简体中文、繁体中文)、韓国語に対応した当公園の概要と利用案内を紹介するページを新たに作成し、インバウンド誘致を図った。

#### (2) 環境学習の実施

「野鳥観察会」のほか、昆虫や植物を対象とした「自然観察会」、動物を対象とした座学「ネイチャーカフェ」を実施した。体験型では「クリスマスリース作製体験」や、倒木等を材料とした「木工クラフト講習会」などを開催した。

野鳥観察会は年6回以上の開催を目標としていたが、シマエナガ等の野鳥人気に対応して計19回開催し、環境学習の機会を増やすとともに、利用者サービスの向上に努めた。

#### (3) 障がい者支援団体によるレストハウス管理運営の継続的サポート

レストハウスでは、公園の利用案内、施設の清掃、車椅子の貸出、売店営業などの業務を障がい者支援団体に委託し、障がい者の自立に向けたサポートを行った。また、売店営業による収入の一部を手数料として徴収し、公園の維持管理費用に充当することにより、障がい者が経営感覚を身に付け、また公園のために働いているという意識から意欲の向上につなげる取組みを行った。

レストハウスではその他、自然写真展の開催や震災時(停電)のサポートなど、連携による管理運営を行い、利用者サービスの充実に努めた。

#### (4) 生物多様性を保全する活動の推進

野生生物などの専門家による指導のもと、子ども達が公園及び近郊で見られる動植物の観察を行うことで生物多様性について学び、環境保全の意識啓発を図った。

自然調査体験プログラムの「森のたんけん隊」では、公園に生息するオオムラサキの保護活動として、子ども達が幼虫の食草であるエゾエノキの育成管理等を行う活動を企画し、実施した。

#### ■普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①早朝野鳥観察会(19回)	241人	⑦花の寄せ植え講習会	6人
②森のたんけん隊(12回)	167人	⑧ネイチャーカフェ(6回)	121人
③定例自然観察会(5回)	36人	⑨ノルディック・ウォーク体験講習会	9人
④カルチャーナイト2018	18人	⑩クリスマスリース作製体験	13人
⑤旭山夏まつり	200人	⑪スノーシュー自然観察会(3回)	28人
⑥旭山自然写真展(12日間)	1,239人	⑫木工クラフト講習会「おはし作り体験」	14人

### 2 市民参加・協働等

公園を拠点に自然環境プログラム等の活動を展開する市民団体「旭山記念公園市民活動協議会(以下、市民協議会)」と密接に連携し、利用促進と環境保全の啓発を行った。



指定管理者が実施する「森のたんけん隊」等の環境学習では、市民協議会に講師を依頼し、また市民協議会が主催するプログラムに共催として指定管理者が協力するなど、市民協働による公園の運営及び利用促進、環境学習の充実を図ることができた。

このほか、近隣小学校から依頼を受けた環境学習について、市民協議会の構成団体や動植物の専門家と協働で実施した。

近隣町内会との連携では、公園イベント情報の回覧板への掲載に協力いただき、その結果、情報共有がなされたことで、木工スキルを持った町内会の方が「木工クラフト講習会」の講師を務めるきっかけとなるなど、新たな事業と市民協働の展開があった。

**■旭山記念公園市民活動協議会との主な協働イベント一覧**

イベント名	参加者数
WONDER FOREST IN さつぼろ	100 人
星空観察会	82 人
森のフェスティバル	78 人
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2019	29 人
冬のフェスティバル	58 人

## 他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

### 1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) 入園者数 年間入園者数 538,227 人  
※台風 21 号、胆振東部地震等の影響による臨時閉園期間の補正数値含む

### 2 利用指導及び利用サービス等

- (1) 利用促進事業
  - すずらんメール発行 4 回／年(総配布部数 810,000 部)
  - イベントチラシ(新聞折込広告) 3 回／年(総配布部数 1,235,000 部)
  - 道内外旅行情報誌への広告掲載及び道外及び国外旅行フェアでのPR活動等
- (2) 滝野の森における利用プログラム  
開催回数 299 回 延べ 11,697 人
- (3) 公式ウェブサイトのアクセス件数  
3,246,543 件
- (4) ボランティア活動
  - ① フラワーガイドボランティア
    - ・ 登録人数 33 人(延べ 557 人)
    - ・ 活動期間 4 月 28 日～10 月 8 日(152 日間)
    - ・ 活動内容 ガーデンツアー、巡回ガイド等
    - ・ 参加者数 1,619 人
  - ② 滝野の森クラブ
    - ・ 登録人数 41 人(延べ 1,279 人)
    - ・ 活動期間 4 月 11 日～3 月 31 日(168 日)
    - ・ 活動内容 ガイドツアー、スノーシューガイド、森の楽校等
    - ・ 参加者数 3,115 人
- (5) 主なイベント
  - ① パンジー・ビオラ collection2018 5 月 1 日～5 月 31 日
  - ② シラネアオイと春の野の花まつり 5 月 9 日～5 月 20 日
  - ③ 第 8 回北海道キャンピングフェア 5 月 19 日・20 日
  - ④ チューリップ・すずらんフェスタ 5 月 19 日～6 月 10 日
  - ⑤ SEKAI NO OWARI ～INSOMNIA TRAIN～ 6 月 23 日・24 日
  - ⑥ 滝野サマーイルミネーション 7 月 28 日～8 月 15 日
  - ⑦ 森フェス～2018Summer～ 7 月 29 日
  - ⑧ LIGHT UP NIPPON HOKKAIDO in 国営滝野すずらん丘陵公園 8 月 26 日
  - ⑨ たきの秋空コンサート&南区マルシェ 9 月 23 日・24 日
  - ⑩ スポカルオータム in 滝野 9 月 29 日・30 日
  - ⑪ 道央雪合戦チャンピオンカップ 1 月 12 日・13 日
  - ⑫ たきのスノーフェスティバル 2 月 2 日・3 日
  - ⑬ ウインターマラソン 2 月 16 日
  - ⑭ たきの森フェス Winter 2 月 24 日

## 収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実を図るため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

### 1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出し等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

#### (1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

#### (2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル(スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器)等

#### (3) 収入金額

24,367,551 円

### 2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

#### (1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

#### (2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

#### (3) 収入金額

18,442,969 円

### 3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

#### (1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

#### (2) 収入金額

24,287,382 円

### 4 その他

月寒公園で貸しポート及び坂下野球場の管理運営(管理許可)を行った。

#### 収入金額

2,742,360 円

## 評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

### 評 議 員 会

定時評議員会(平成30年6月28日開催)

議 題 報告事項

平成29年度事業報告の件

決議事項

平成29年度決算承認の件

みなし決議(平成30年10月12日付け)

監事選任の件

みなし決議(平成31年3月28日付け)

評議員選任の件

### 理 事 会

平成30年度第1回理事会(平成30年5月31日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告の件

決議事項

平成29年度事業報告承認の件

平成29年度決算承認の件

定時評議員会招集及び提出議題の件

みなし決議(平成30年10月3日付け)

監事候補者選任の件

みなし決議(平成30年12月28日付け)

給与規則の一部改正の件

平成30年度第2回理事会(平成31年3月20日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告の件

決議事項

給与規則の一部改正の件

理事長の報酬月額改正の件

平成31年度(2019年度)事業計画書及び収支予算書の承認の件

評議員候補者推薦の件

事務局長選任の件

## 平成 30 年度事業報告

平成 30 年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。